

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

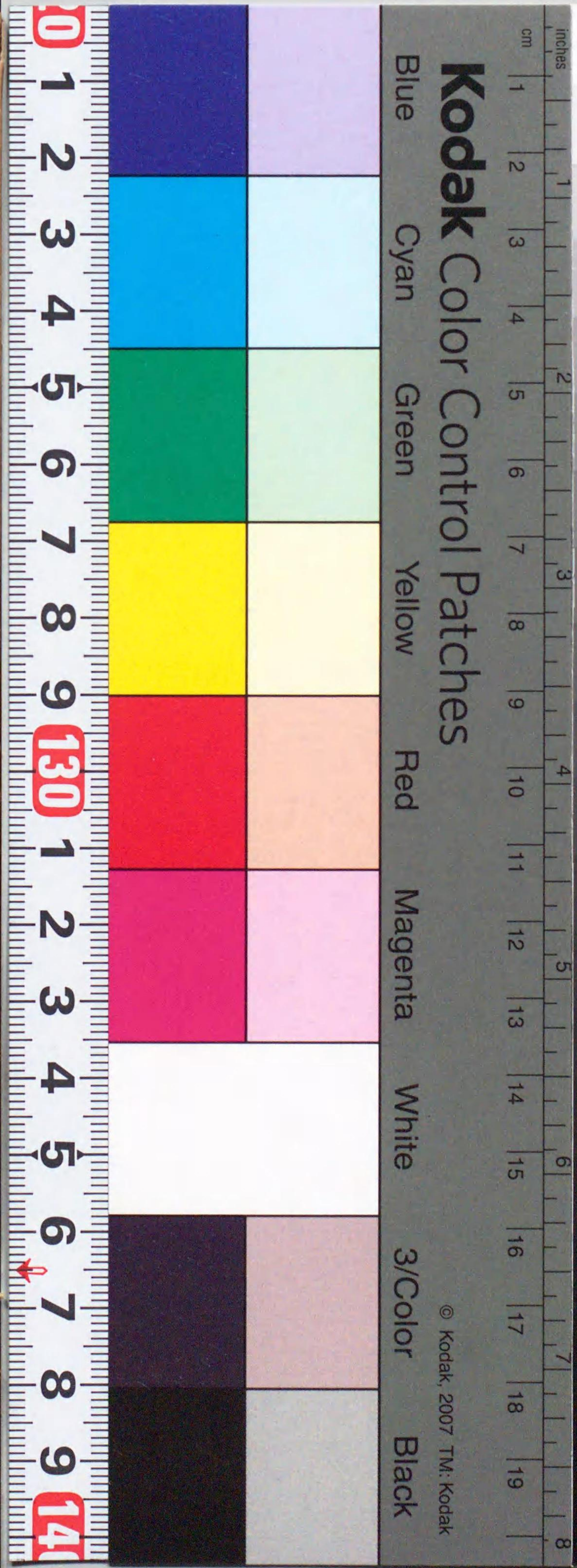


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Y994

J7629

明治廿四年十月廿二日內務省許可

明治二十六年七月二十一日



# 理財科講義

五十八第

## 專修學校

每金曜日發兌



Y994-J7629



I種  
W



目録

社會問題	法學博士 金井延
行政學	法學士 佐脇安文
刑法(總則)	法學士 岡田朝太郎
民法財産編第一部(物權)	法學士 岡田朝太郎
民法財産編第一部(物權)	法學士 兩角彦六
二十年来經濟世界之景況	法學博士 田尻稻次郎

規定ノ各條ニ對シテ非常ノ反對說起リ且其多クハ箇人的ノ利害即チ自己ノ損益ニ關スルカ爲メニ基因シタルコトヲ痛ク歎息シタリ斯ク不完全ナルニモ拘ハラズ此法律ハ現今佛國ニ行ハル、幼者並ニ婦女ノ保護ニ關スル法令ノ重要ナル部分ヲ占メ居レリ此法律發布後同年十二月二十日綱涉師、典馬師等カ幼穉ノ兒女ヲ使役スルニ就テノ法律ヲ發布シタリ是ヨリ以後ハ專ラ工業監察ヲ盛ンニシ並ニ之ニ關スル法律ヲ制定シ兼テ又法律執行ニ必要ナル勅令等ヲ發布スルコトニ全力ヲ費ヤシタルカ如シ然レトモ彼一千八百七十四年ノ法律ハ決シテ難平無爲ノ月日ヲ保ツコト能ハスシテ發布後間モナク之ヲ變改セントスルノ企畫始マレリ而シテ之ヲ變改セントノ運動ハ始メ唯、該法ノ效力ヲ減殺スルニ在リタレトモ後該法律ヲ擴充シテ益、其效力ヲ多カラシメントスルニ至レリ一千八百七十六年五月十日テステラン氏該法律ノ第九條即チ拾五歲以下ノ幼者ニシテ或程度ノ學校教育ヲ終リタル證明書ヲ有セサルトキハ一日六時間以上勞働セシムルヲ得ストノ箇條ヲ停止シ而シテ此ノ箇條ヲ實行ヲ確ムル爲メノ脅迫教育制度確立シタル後ニ實施セントノ議案ヲ元老院ニ提出セリ又代



議院ニ於テハレオン、レーナー氏ハ該法律全體ニ對スル修正殊ニ或種類ニ限り  
 例外ヲ設ケ幼者使役ノ年齢ヲ變更シ婦女ニ工場ノ夜業ヲ許スノ場合ヲ設ケン  
 コト等ヲ建議セリ其他ラグラン、マーラン氏等モ元老院ニ於ケルテステラン氏  
 ノ建議ニ就テ更ニ建議ヲナセリ然ルニ此等ノ建議ハ總テ主トシテ北方佛蘭西  
 ノ紡績業者ノ期望ニ基テ起リタルモノナリ而シテ北方ト南方トハ素ト其利害  
 正反對ナルヲ以テ若シ此等ノ建議案ニシテ通過セシナラムニハ北方佛蘭西ニ  
 取テ大ニ便益アルモ南方ニハ非常ノ不利益ヲ與フルハ必然ナリ是ヲ以テ代議  
 院ハ總テ此等ノ建議案ヲ否決シタリ是ニ於テカ初メ元老院ニ建議シタルテス  
 テラン氏モ目下ノ趨勢不可ナルヲ察知シタルヤ否ヤハ知ラサレトモ自ラ其建  
 議ヲ撤回シタリ然レトモ前已ニ述ヘタルカ如ク勞働者保護ノ範圍ヲ擴充スル  
 企畫ハ全ク已ミタルニ非スシテ漸々其歩武ヲ進メ殊ニ最長勞働日ノ制限及ヒ  
 婦女ノ保護ニ關スル輿論ハ頗ル喧シクナレリ又社會主義ヲ奉スルモノハ黨派  
 ナ樹テ、競争場裡ニ縱横シ殊ニ鑛山業ノ盛ナル地方ニ在テハ屢勞働者ト資本  
 家トノ間ニ激戰ヲ生シ爲メニ日夜社會ノ耳目ヲ悚動セリ而シテ彼ノ社會主義

二

三

者ノ謂フ所ヲ聞クニ曰ク此ノ如ク悲惨ノ珍事ヲ挑發スル弊竇ヲ杜塞セント欲  
 スレハ他ナシ只勞働者ヲ保護スル法策ヲ運ラスニ在リト然レトモ是レ實ニ漠  
 然タル希望ニシテ其策當ニ何レニ出ツヘキヤ更ニ捕捉スヘキナシ就中非常ノ  
 極端論モアリタリト雖モ大抵茫漠トシテ今一々之ヲ説明スルニ由ナキモノナ  
 リ事態此ノ如クナリシヲ以テ當時ニ於ケル勞働者保護ノ法案ハ概テ立消ヘト  
 ナリテ終レリ僅カニ成功ヲ見タルハ唯一千八百八十三年二月十六日ノ法律ノ  
 ミナリ同法ハ彼一千八百七十四年ノ法律ヲ以テ十五名ニ限リタル監察官ノ數  
 ヲ増加シ之ニ地方委員ノ如キ他ノ監察ニ從事スルモノヲ加ヘ以テ一千八百四  
 十八年ノ條例ニ依リ定メタル最長勞働日ノ制限果シテ善ク實行サル、ヤ否ヤ  
 ヲ監督セシムルモノナリ又或點ヨリ視ルトキハ脅迫教育ニ關スル一千八百八  
 十二年三月二十八日ノ法律モ亦間接ニ勞働者ノ保護上非常ノ功アリタリト云  
 ハサル可カラス

一千八百八十四年三月十四日商務大臣ヘリントン氏書面ヲ廻付シテ所謂上等委  
 員ニ勞働者保護律ヲ改正スルノ必要アルヤ否ヤ若シ之アリトセハ如何ナル方



針ヲ以テ改正スヘキヤヲ調査セシメントセリ而シテ此書面ノ命令ニ從ヒ未タ嘗テ佛國ニ經驗ナキ所ノ精密ナル調査始マレリ此調査ニハ嘗ニ起業家ノ代表者ノミナラス勞働者ノ委員モ亦多少其意見ヲ述フルヲ得タルヲ以テ頗ル好都合ナリシカトモ未タ其調査ヲ畢ラサル前商務大臣更迭シタルカ爲メ之ヲ利用シテ新法律案ヲ制定スルコト能ハサルニ至レリ一千八百八十六年十一月十六日新商務大臣ロクロアー氏新ナル法律案ヲ代議院ニ提出シタリ而シテ其法律案ハ前ノ上等委員ノ調査ニ基キタルモノニシテ唯其建議ニ係ル勞働時間ノ制限ヲ男子ニ對シテモ一日十一時間ニスル箇條ヲ削除シタルニ過キサレモノナリ此法律案ハ委員會ノ討議ヲ經テ總會議ニ提出サレ一千八百八十九年二月五日第二議會ヲ經テ代議院ノ可決スル所トナリ直ニ元老院ニ廻送セラル元老院ハ同年七月ノ第一議會ニ於テ多少ノ變更ヲナシタリ此變更ノ要點及ヒ該法案ノ要旨ハ本章沿革ヲ論スル時ヨリハ次章ノ現行法ノ條下ニ説明スルヲ良トス故ニ之ヲ後日ニ讓ラン

## 第二章 勞働者保護ニ關スル佛國ノ現行法

勞働者保護ニ關スル佛國ノ現行法ハ一千八百七十四年ニ發布サレタルモノナリ而シテ此法律ハ二三ノ例外ヲ除ク外總テノ鑛業工場細工場等ニ適スルノ效力アリ乃チ父母ノ家内ニ於ケル幼者ノ勞働ハ該法ノ規定スル所ニ非ス又之ト同一ニ看做サル、モノアリ即チ慈善若クハ職業教育ヲ目的トスル場所是ナリ斯ル取扱ヲ受ケントスル場所ハ些少タリトモ其勞働ニ依リテ利益ヲ得ンコトヲ計ル可カラス故ニ假令慈善ヲ目的トスルモ苟モ其性質ニシテ營利的ノモノナランニハ該法ノ規定ニ從ヒ工業監察ノ下ニ立タサルヲ得ス然リ而シテ其性質上營利的ナリト看做サル、モノノ適例ハ大審院ノ判決ニ照セハ明瞭ナリ即チ一千八百八十八年八月二日ノ大審院判決ハ正ニ此適例ヲ明示セリ又佛國ニ於テ國有ノ工場恰モ我國ノ印刷局ノ如キ官業ノモノアリ此等モ亦概テ前掲法律ノ規定ニ從フヘキモノニシテ唯特別ノ勅令ニ依リテ監督ノ下ニハ立タサルノミ



是ヨリ以後講述スル所ハ總テ一千八百七十四年ノ法律及ヒ之ニ關係ノ勅令ヲ基礎トス故ニ特ニ該法律勅令等ニ依ラサルコトヲ明言セサル以上ハ該法律及ヒ關係勅令ノ規定ト知ルヘシ

### 第一節 幼者並ニ婦女ノ勞働保護

#### 甲 就業年齡

就業年齡ハ滿十二歲以上トス然レトモ此制限ハ勅令ヲ以テ或種類ニ限リ滿十歲以上トスルヲ得而シテ此種ノ勅令ヲ發シタルハ今日マテ僅ニ紡績業及ヒ硝子製造業等ニ過キスシテ其他ノ職業ハ渾テ滿十二歲以上ノ制限行ハル、モノトス

#### 乙 勞働時間

若シ滿十二歲以下ノ幼者ヲ前規定ノ例外ニ使役スルトキハ一日六時間以上就業セシムルヲ得ス且其六時間中ニ於テ休息時間ヲ與ヘサル可カラス滿十二歲以上十六歲以下ハ一日十二時間ヲ以テ限リトス而シテ其時間中ニ休息時間ヲ

與ヘサル可カラス此等ノ制限以上ノ勞働ハ假令暫時タリト雖モ之ヲ嚴禁セリ此ニ該規定ニ關シテ法理上明晰ナラサル點一アリ即チ所謂十二時間トハ實際勞働シツ、アル時間ヲ指スヤ將又工場内ニ居ル時間ヲ指シタルモノニシテ其中ニ休息時間ヲモ包含スルモノナルヤト云フコト是ナリ今甲說ニ依ルトキハ實際就業ノ時間ヲ指ストシ又乙說ニ依レハ工場内ニ在ル時間ヲ指スト云ヘリ又或時商務大臣ノ發シタル訓令ニ依テ見ルトキハ乙說ノ解釋正當ナルカ如シ即チ十二時間トハ工場内ニ居ル時間ノ謂ニシテ其中ニ休息時間ヲモ包含スルモノナリ然リ而シテ此訓令ハ一見幼者ノ利益ナルカ如クナリト雖モ其實ハ却テ失害トナリタリ其故如何ト云フニ狡猾ナル雇主ハ十二時間絶ヘス就業セシメ得ヘク而シテ之カ監督容易ナラサルノ弊アリ現ニ一千八百八十九年五月二十日世ニ公ニナリタル事實ニ依テ見レハ佛國ノリオン府ニ於テ休息時間ヲ與フト稱シテ十二時間工場内ニ留メ置キ絶ヘス就業セシメタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ商務大臣ノ訓令ハ幼者ノ利益ナルニ似テ而シテ非ナリ此ノ如ク二者何レニ解スヘキヤ判然セサル規定ハ該法ノ缺點ナリ



前章ノ第三節ニ擧ケタル徒弟條例ニ依ルトキハ十四歳以下ノ徒弟ハ一切一日十時間以上眞ノ労働ニ就カシムルコトヲ得ス又十四歳以上十六歳以下ノ徒弟ハ十二時間ヲ以テ限リトス然ルニ此規定ハ彼一千八百七十四年ノ規定ト多少牴觸セリ故ニ後發ノ法ハ前發ノ法ヲ改ムルトノ原則ニ由テ一千八百七十四年ノ條例ハ廢止セラレタルモノナルヤ否ヤト云フニ其原則上ヨリ斷論スルトキハ甚タ照然タルカ如シト雖モ亦實際然ラサル所アリ要スルニ幼工ニ利益ノ規定ハ始終有效ナルニ非スヤトノ問題ハ今日ニ在テ未タ決定セサル所ナリ是レ佛國現行ノ労働者保護律ニ於ケル缺點ナリ

丙 就學規定

十二歳以下ノ幼者ハ必ス學校へ通學ストノ證明書ヲ所持セサル可カラス又其通學スル學校ニ於テ普通ノ級外ニ特別級ノ設ケアル場合ト雖モ少クモ一日二時間修學セシメサル可カラス又滿十六歳以下ノ幼者ニシテ讀書算術並ニ度量衡ノ制ヲ實際的ニ知リ得タル證明書ヲ有セサルトキハ一日六時間以上使役スルコトヲ得ス而シテ其讀書算術ノ力ナキ徒弟ニハ之ヲ習得スルニ必要ナル時

(二) 縣知事カ自治體監督者トシテ執行スル處分ヲ拒否スルノ權

(三) 郡又ハ市ノ參事會ノ決議ニ對シ不服ノ訴願ヲ裁定スルノ權

(四) 郡會ノ決議ヲ認可スルノ權

第三 郡 郡ハ一方ニ於テハ行政區畫ナレトモ又一方ニ於テハ自治區ナルヲ以テ團結權ヲ有セリ團結權トハ法人タル資格ノ謂ニシテ郡ハ私法上ニ於テモ又公法上ニ於テモ法人タリトス故ニ私法上ノ法人トシテ自己固有ノ事務ヲ處置シ財産ヲ管理シ又國家ヨリ其自治ニ放任シタル公共事務ヲ處辨シ兼テ國家ノ行政事務ヲ執行セサル可カラス又郡ハ公法上ノ法人トシテ行政裁判所ニ訴訟スルヲ得ヘク或ハ郡條例ヲ設クルヲ得ヘシ而シテ郡ノ境域ヲ變更シ或ハ新ニ郡ヲ設ケ或ハ數郡ヲ合併シテ一郡トナスカ如キハ總テ法律ヲ以テ定ムルモノトス

郡ニ二種アリ一ヲ野郡ト云ヒ一ヲ市郡ト云フ市郡トハ人口二萬五千以上ヲ有スル市街ヨリ成立スルモノヲ云フ而シテ市郡ニ於ケル郡會ノ事務及ヒ郡ノ行政上郡參事會ニ於テ擔任スヘキ事務ハ市廳之ヲ擔任ス又現役ノ軍人ヲ除ク外



其郡内ニ住居スルモノ之ヲ郡民ト稱シ總テ名譽職ニ就クノ義務アリ然レトモ此制限ニハ例外アリ例ヘハ病人六十歳以上ノ老人自家ノ營業上名譽職ヲ勤ムルコト能ハサルモノ、如キ是ナリ苟モ此理由ナクシテ猥リニ名譽職ニ就任スルコトヲ拒絶スルトキハ郡會ノ決議ヲ以テ數年間郡行政ノ代議政ニ參與スルノ公權ヲ剝奪シ且郡稅ヲ増課ス但其處分ニ不服ナルモノハ二週日以内ニ縣參事會ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

郡ノ行政機關ハ左ノ如シ  
 郡長 郡長ハ官選ノ有給官吏ニシテ郡内ノ行政事務ヲ總括シ其職權内ノ事項ニ付テハ責ヲ一身ニ負フ但其法律ニ於テ特別ノ規定アルモノハ此限リニ在ラサルナリ今其郡長ノ職權ニ屬スルモノヲ舉クレハ(一)郡參事會ノ議長トナリ或場合ニハ行政官トシテ行政裁判官ヲ兼テ(二)郡ノ警察令ヲ發布シ(三)町村警察署ノ警察處分ニ對スル訴願ヲ判決シ(四)下級自治體ヲ監督スル等ナリ  
 郡參事會 參事會ハ郡長ヲ以テ議長トシ而シテ參事會員ハ郡民中ヨリ六箇年ノ期限ヲ以テ郡會之ヲ選舉シ三年毎ニ其半數ヲ改選ス參事會ノ議事ハ三名以

以上ノ會員出席スルニ非サレハ開始スルヲ得ス又其表決ハ過半數ニ依ル而シテ參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ(一)郡會ノ議案ヲ起草シ其議決ヲ施行シ(二)法律若クハ郡會ノ決議ニ從ヒ且郡會議定ノ定額豫算ニ準據シ郡務ヲ處理シ(三)郡ノ吏員ヲ任用シ及ヒ其行政ヲ指揮監督シ(四)法律ニ依リ委任セラレタル事項ニ付キ其意見ヲ陳述シ(五)法律ニ依リ委任セラレタル行政事務ノ管理スル等ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ郡參事會ハ第一自治體ノ機關第二國家ノ機關ニシテ第三ハ則チ郡ノ行政裁判所ナリトス此故ニ郡長ハ郡參事會ヲ指揮監督スト雖モ外ニ對シテハ自己ノ名ヲ以テセス却テ參事會ノ名ヲ以テ或ハ他ノ官廳又ハ人民ト交通往復シ或ハ書類ニ署名セリ

郡會 郡會ハ郡ヲ代表スルノ責任アリ郡會議員ハ二十五名以上ニシテ人口二萬五千以上十萬以下ノ郡ハ五千名毎ニ一名ヲ増加シ十萬以上ノ郡ハ一萬人毎ニ一名ヲ増加ス而シテ其選舉方法ハ群内ニ於ケル經濟上及ヒ社會上ノ平衡ヲ得セシメンカ爲メ三種ノ選舉組合ヲ設ケ即チ第一中等以上土地所有者ノ選舉組合第二村落選舉組合第三市街選舉組合是ナリ第一ノ組合ニ屬スルモノハ獨



逸人ニシテ滿二十一歳ニ達シ且私有財産ヲ管理スル能力ヲ有シ公權ヲ具有スルモノナラサル可カラズ第二ノ組合ニ屬スルモノハ村落ノ代表者及ヒ第一ノ組合ニ屬セサルモノ第三ノ組合ニ屬スルモノハ市街ノ住民ニ限レリ郡會ノ職權ハ郡内ノ事項ニ限レリ然レトモ中央政府ノ委任ヲ受クルトキハ郡ノ利害ニ關セサル事件ト雖モ之ヲ議決スルヲ得ヘシ今其郡會ノ職權ニ屬スルモノヲ舉クレハ概略左ノ如シ(一)郡條例ヲ制定スルコト(二)各郡ニ賦課スル國稅徵收ノ方法ヲ議定スルコト(三)郡ノ義務ヲ果タシ又ハ其事業ヲ起スカ爲メニ要スル經費ヲ議決シ及ヒ郡ノ共有財産ヲ處分シ或ハ公債ヲ起シ或ハ郡稅ヲ賦課スルコト(四)郡ノ豫算ヲ確定シ且其決算ヲ檢閲シテ之ニ認可ヲ與フルコト(五)郡ノ吏員及ヒ職員ノ編制並ニ其員數給料等ヲ議定スルコト

第四 村落 村落ハ最下級ノ自治體ナリ而シテ縱令私領地タリトモ苟モ一村ヲ落ナナスニ足ルモノハ公法上村落タルヲ許シ法人トシテ權利ヲ有シ義務ヲ負ハシムルモノトス

村落事務ニシテ村長ノ專斷ニ屬セサルモノハ村民總會又代議會ニ於テ之ヲ議

決ス又村落ノ公務ニ對スル直接ノ監督ハ郡長之ニ任シ縣知事間接ニ之ヲ監督ス例ヘハ村落ニ於テ締結スル契約及ヒ不動産ノ賣買ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケサル可カラサルカ如シ

村長 村長ハ特別ノ慣習又ハ法規アルニ非サレハ多クハ其領主ヨリ村民ニ諮問シタル後選任シテ郡長ノ認可ヲ經且郡長ノ面前ニ於テ誓約ヲナス而シテ其任期ハ六箇年トス又領主ナキ地方ニ在テハ村長及ヒ助役ハ村民總會又ハ代議會ニ於テ過半數ノ同意ヲ以テ村民中選舉權ヲ有スルモノヨリ之ヲ選舉ス但其村長及ヒ助役ニハ父子同時ニ就任スルヲ得サルノ制限アリ而シテ村長又ハ助役ニ就任スヘキハ村民タルモノ、義務ナルヲ以テ正當ノ理由ナク猥リニ其就任ヲ拒絕スルモノ又ハ假令就任スルモ三年間在職セサルモノハ村落ノ參政權ヲ停止シ又ハ村稅ヲ增課ス而シテ若シ其處分ニ對シテ不服ナルモノハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ許セリ

村長及ヒ助役ハ名譽職トス然レトモ村長ハ實費ノ辨償及ヒ勞力至當ノ報酬ヲ要求スルヲ得ヘク又特別ノ慣習若クハ規定アルトキハ必スシモ然ルニ非サル



ナリ助役ハ唯實費ノ辨償ヲ得ルニ止マル  
 村民總會又ハ代議會ノ決議ニシテ其權限ヲ越ヘ或ハ法律ニ違反シタルトキハ  
 村長ハ自己ノ意見又ハ監督官廳ノ命令ニ因リ其決議ヲ破毀スルコトヲ得ヘシ  
 村長ハ共同ノ營造物及ヒ村有財産ノ使用ニ關スル權利ノ爭論村稅及ヒ賦役ノ  
 賦課徵收ニ不服ナル爭議ヲ判定ス又村長在職ノ任期ハ再選ヲ永續シテ終身ニ  
 至ルモ妨ナシ

村會 村民ノ全數十八名以下ナルトキハ村民總會トナシ十八名以上ナルトキ  
 ハ代理員ヲ選定シテ代議會ヲ組織ス村會ノ議長ハ村長ヲ以テス村長ハ參決權  
 ナ有スルヲ以テ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス村會ハ法律ニ因リ村長ノ獨  
 斷ニ放任セル一切ノ村務ヲ議決シ兼テ議決ノ執行村費ノ支出村内ノ工事等ヲ  
 監督ス村會ニ於テ村落ノ義務ニ屬スル負債又ハ監督官廳ヨリ賦課シタル租稅  
 ナ豫算中ニ編入セス又ハ議決セサルトキハ郡長ハ其理由ヲ示シテ之ヲ豫算中  
 ニ編入セシメ又ハ其賦課徵收ヲ命スルコトヲ得ヘシ

第五 市街 (注意此所謂市街トハ我國ノ町村制ニ於ケル町ト殆ント同一ナリ)

市街ハ合議制ノ市參事會ト市會トヲ以テ之ヲ代表ス市參事會ハ市長副市長及  
 ヒ市參事會員數名ヲ以テ組織ス又市務ニ從事セシムルカ爲メ助役數名吏員數  
 名ヲ置ク例ヘハ學務役收稅役等ノ如キ是ナリ市參事會員ハ六年ノ任期ヲ以テ  
 市會之ヲ選舉シ三年毎ニ其半數ヲ改選ス市長及ヒ其他ノ有給吏員ノ任期ハ十  
 二年ナリト雖モ亦終身トナスコトヲ得ヘシ市長副市長助役及ヒ有給吏員ノ選  
 舉ハ必ス認可ヲ要ス而シテ人口一萬以上ノ市ニ在テハ皇帝ノ認可ヲ要シ其他  
 ノ市ニ在テハ縣廳ノ認可ヲ要スルモノトス  
 市會 ハ各級ヨリ選出シタル市會議員ヲ以テ組織シ其數ハ人口ノ多少ニ因テ  
 各市同一ナラス又其選舉方法ハ參政權ヲ有スル市民中ヨリ之ヲ選舉スルモノ  
 トシ而シテ直稅ノ納額ニ依リ(納額高ハ各地異ナル)市民ヲ三級ニ分チ各級ヨリ  
 總議員ノ三分一ヲ選舉スルモノトス各級ヨリ選舉シタル議員ノ半數ハ必ス家  
 屋ヲ有スルモノナラサル可カラス而シテ其任期ハ六年ニシテ二年毎ニ三分  
 一ヲ改選ス

市會ト市參事會トノ事務分掌ハ市參事會ハ市行政ヲ總理シ市會ハ其行政ヲ監



督シ市共有財産ノ使用法市税ノ徵收法歲計豫算及ヒ俸給課目等ヲ議定シ其他市參事會若クハ市長ノ職掌ニ屬セサル一切ノ市政事務ヲ議決ス市長ハ法律ノ規定ニ從ヒ特ニ左ノ事務ヲ擔任ス

第一 政府ヨリ警察署ヲ設置シテ地方警察ヲ專掌セシメサルトキハ其市ノ警察事務ヲ掌リ而シテ司法警察ノ機關トナル

第二 法律命令ニ依リ市街ニ限リタル事務ヲ執行ス(獨逸ニハ警察區ナルモノアリ斯ル場合ニハ市町村其警察ヲ兼ヌルコトアリ)

市政ノ監督 市政ノ監督ハ縣廳之ニ任ス故ニ若シ市會ニ於テ其權限ヲ踰越シ又ハ法律ニ背戾シ或ハ治安ヲ妨碍スルカ如キ議決ヲナストキハ監督官廳ハ市參事會若クハ市長ニ命シテ其議決ノ執行ヲ停止セシムルヲ得ヘシ又市會ニ於テ不動産又ハ不動産ニ均シキ權利ヲ賣却讓與シ或ハ市公債ヲ募集シ或ハ市ノ租稅ヲ徵收スル等ノ議決ハ縣廳ノ認可ヲ經ルニ非スハ施行スルヲ得ス又市會ニ於テ法律上其負擔ニ屬スルモノヲ議決セス或ハ之ヲ承諾セサルトキハ縣廳ハ其法律ヲ指示シ豫算ノ強制執行ヲ命スルヲ得ヘシ然ルモ猶ホ市會ニ於テ

其命令ニ抗スルトキハ内閣ノ上奏ニ因リ勅令ヲ以テ市會ヲ解散セシムルコトヲ得

市ハ以下ノ二項ニ付キ市條例ヲ設クルコトヲ得即チ第一法律ニ於テ許可セル場合第二市特有ノ事項例ヘハ選舉會ニ要スル規則或ハ工業又ハ商業ノ組合規則ヲ設クルヲ得然レトモ是等市ノ制定ニ係ル條例ハ必ス監督官廳ノ認可ヲ要スルモノトス

英國地方制度

(註)英國地方制度ハ前既ニ略言シタレトモ今稍明晰且精確ニシテ據ルヘキノ參考書ヲ得タレハ更ニ重複ヲ厭ハス順次詳説セン

英國古來ノ地方制度ハ實ニ錯綜紛糾ニシテ現今ニ適セサルモノ鮮ナカラズ此故ニ一千八百八十八年新ニ法律ヲ發布シテ其一部ヲ改正セリ而シテ此法律ニ依ルトキハ全國ヲ數十ノ行政區ニ分チ其一區劃ヲ行政縣又ハ縣市ト稱シ而シテ各行政區ニハ唯一ノ代議行政體アリテ其地方ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス之ヲ稱シテ縣參事會ト云フ



縣參事會ハ年寄及ヒ參事會員ヲ以テ組織ス而シテ年寄ト參事會員ハ其權力ニ差異ナク唯、其人員任期及ヒ選舉法ニ於テ差アルノミ即チ參事會員ハ直接選舉法ニ依リテ之ヲ選ヒ其任期ヲ三年トス又年寄ノ人員ハ參事會員ノ三分ノ一ニシテ參事會員又ハ縣民中ヨリ推選シ其任期ヲ六年トシ三年毎ニ半數ヲ改選ス又參事會ノ議長ハ年寄及ヒ參事會員中ニテ互選シ其任期ハ一年ナリ而シテ名譽職ナレトモ相當ノ報酬ヲ受クルコトヲ得又年寄及ヒ參事會員タル資格ハ其貴族タルト宗教家タルトニ論ナク總テ法律規定ノ租稅トハ一箇年縣内ニ住居シ縣稅ヲ納ムルモノヲ云フヲ納ムルモノハ皆之ヲ有ス而シテ其選舉方法ハ各縣ヲ會員ノ定數ト同數ニ區分シ每區一名ヲ選出スルモノトス

縣參事會ノ權限 縣ハ自治團結體ナルヲ以テ其機關タル參事會ハ其名ヲ以テ財產ヲ所有シ縣條例ヲ制定シ又總テノ公文ニハ縣印ヲ用ユルモノトス然レトモ縣條例ニシテ或事項ニ關スルモノハ特ニ國務大臣ノ認可ヲ要ス又樞密院令ヲ以テスルトキハ縣條例ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ヘシ

縣參事會ノ權限ニ屬スルモノ大略左ノ如シ

- 第一 縣有財產ヲ保管シ又ハ縣用ノ土地建物ヲ買收シ若クハ貸與スルコト
  - 第二 工藝學校感化院癲狂院ノ設立維持又ハ保護スルコト
  - 第三 縣ノ道路橋梁ノ設置及ヒ其修繕
  - 第四 傳染病ノ豫防害蟲ノ驅除魚類ノ保護等ニ關スル法律ノ執行
  - 第五 縣吏ヲ任用シ且其俸給ヲ議定ス
  - 第六 警察官ノ任用及ヒ其組織ヲ議定ス
  - 第七 國會議員及ヒ縣參事會員ノ選舉區域ヲ定メ其選舉會場ヲ指定シ又ハ選舉名簿ヲ整理ス
  - 第八 宗教上ノ結社學術上ノ協會慈惠ノ組合等ヲ監視ス
  - 第九 各種ノ戲遊場及ヒ劇場等ノ設立ヲ許否スルコト
- 縣ノ財政 縣費警察費村落費ノ分配法及ヒ徵收法ハ縣參事會ニ於テ之ヲ議定ス然レトモ是等諸費ノ用途及ヒ縣費ノ分配ハ四季會ノ同意ヲ經サル可カラス又地方政務廳ノ認許アルトキハ公債ヲ整理シ又ハ縣有財產ヲ買收シ若クハ公共ノ事業ヲ起スカ爲メニ公債ヲ募集スルコトヲ得ヘシ而シテ地方政務廳ハ公



債ノ償還年限及ヒ其方法ヲ定ムルモノトス又縣ハ如何ナル事情アルモ三十箇  
 年以上繼續スル公債ヲ起スヲ得ス  
 縣ノ豫算案ハ會計年度ノ始メニ於テ該年度ノ收入支出ヲ縣參事會ノ議ニ付シ  
 而シテ年度ヲ二期ニ分チ第一期ノ終ニ於テ收入又ハ支出ニ異動ヲ生スルトキ  
 ハ第二期ノ豫算ヲ修正スルコトヲ得ヘク又毎年度ノ收入支出ハ地方政務廳ノ  
 指定ニ從ヒ之ヲ同廳ニ報告セサル可カラス而シテ地方政務廳ハ其報告ヲ國會  
 ノ檢視ニ供スルモノトス又地方政務廳ハ其任用シタル検査官ヲシテ縣ノ會計  
 ヲ検査セシム

村落 英國ノ村落ニハ三種アリ曰寺院區曰窮民救助區曰地稅區是ナリ抑英國  
 ノ村落ハ其源ヲ寺院區ニ發シタルモノニシテ古昔人民共同ノ寺院ニ參詣スル  
 モノ互ニ相集リテ共同ノ申合ヲナシ又ハ寺院ノ費用等ヲ協議シタルモノナリ  
 故ニ此會ヲ稱シテ庵室會ト云フ所謂村落ナルモノハ此ノ如キ有様ニテ自然ニ  
 發達シタルモノナルヲ以テ其廣狹大小固ヨリ一ナラス從ヒテ其人口モ一村多  
 キハ數千人ニ超エ少キハ四五人ニ過キサルモノアリ村落全數ヲ通シテ平均一

村百四五十人ナリト云フ又各村落ノ境界モ曾テ井然タラスシテ或ハ二縣ニ跨  
 ルモノアリ或ハ市ト縣トニ亘ルモノアリ

窮民救助區 (註)寺院及ヒ地稅區ハ行政學上關係鮮ナキヲ以テ姑ク此ニ之ヲ省  
 略ス

窮民救助區一名行政區ハ其名ノ如ク素ト窮民救助ノ目的ヲ以テ設置シタルモ  
 ノナレトモ現今ニ在テハ一般ノ行政事務ヲ執行スル最下ノ自治體トナレリ而  
 シテ此區ノ行政機關ハ庵室會議及ヒ窮民監督人ノ二トス庵室會議ニ二種アリ  
 一ハ普通會議ト云ヒ一ヲ選舉會議ト云フ普通會トハ其區内ニ於テ區費ヲ納ム  
 ル人民ノ總會ナリ又選舉會トハ人口多キ區ニ行ハル、モノニシテ代議士ヲ以  
 テ組織スルモノナ云フ庵室會議ノ議長ハ其區ノ寺院ノ住職之ニ任シ住職若シ  
 差悶アルカ又ハ寺區ト行政區ト異ナルトキハ別ニ議長ヲ選舉ス又會議ニ於ケ  
 ル表決ハ起立ヲ用井ス舉手ヲ以テス然レトモ若シ其表決ニ對シ一人ノ不服者  
 アルトキハ投票ヲ用ユ而シテ其投票法ハ遞加法ニシテ納稅額ニ依リ一人一票  
 以上六票以下トス議員ハ納稅者ノ互選ニシテ其數ハ人口一千人マテハ十二名



トシ漸次増加シテ百二十名ニ至ルコトヲ得寺院ノ僧侶及ヒ寺院ノ世話人ハ職務上議員ヲ兼任ス議員ノ任期ハ三年ニシテ毎年三分ノ一ヲ改選ス庵室會議ノ主務トスル所ハ區有財産ヲ管理シ及ヒ慈惠ニ關スル事項ヲ議決スルニ在リトス

窮民監督人ハ治安判官ノ指名ニ依リテ區民中ヨリ就任シタルモノ數名アリ而シテ此職ニ任スルハ區民各自ノ義務ナリトス然レトモ正當ノ事由アルトキハ辭職スルコトヲ得ヘシ又庵室會ハ數名ノ監督人助役ヲ選任シテ監督人ヲ補助セシム而シテ助役ニハ救民費中ヨリ俸給ヲ支給ス窮民督監人ノ義務ハ(一)陪審名簿ヲ整理シ(二)國會又ハ地方會議員ノ選舉名簿ヲ調製ス(三)以上ノ事項ニ就テ訴訟アルトキハ各名簿ヲ法廷へ提出ス(四)窮民救助費ヲ賦課徵收スルコト等ナリ

連合區 連合區トハ窮民救助ノ目的ヲ以テ數區ヲ合併シタルモノヲ云フ全國ヲ通シテ六百四十九連合區アリ連合區ハ一千八百三十四年ノ改正窮民救助法ニ依リ新ニ設ケタルモノナリ連合區ノ行政機關ハ唯一ノ委員會アルノミ而シ

テ其委員會ハ治安判官及ヒ被選委員等ヲ以テ組織ス被選委員ノ任期ハ一年ニシテ其被選資格ハ地方政務廳ノ規定スル所ニ依ル委員會ハ窮民救助ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨シ且教育衛生道路戶籍等ノ事務ヲ取扱フモノトス

市制 此ニ市ト稱スルハ一千八百三十五年ノ市府組合法ニ所謂團結市ニシテ一千八百八十八年ノ地方制ニ於テ縣ノ資格ヲ與ヘサルモノヲ云フ市ノ政治機關ハ一ノ市參事會アルノミ而シテ參事會ハ市長年寄參事員等ヲ以テ組織ス市長ハ參事會ニ於テ其年寄中ヨリ一年ノ任期ヲ以テ互選ス市長ハ市參事會ノ議長トナリ又外部ニ對シテ市ヲ代表ス市長ハ報酬ヲ受クルコトヲ得而シテ其額ハ參事會之ヲ定ム年寄ノ員數ハ參事會員ノ三分ノ一ニシテ六年ノ任期ヲ以テ參事會之ヲ選舉シ三年毎ニ其半數ヲ改選ス又參事會員ハ市ノ公民中ヨリ三年ノ任期ヲ以テ選舉シ毎年其三分ノ一ヲ改選ス市内ニ住居シ又ハ市ノ七里以内ニ住居シテ市稅ヲ納ムルモノ之ヲ市公民ト云フ

左ノ事項ニ該當スルモノハ市參事會員タルヲ得ス

(一)市ト商業上ノ取引ヲナスモノ(二)各寺ノ僧侶



市參事會ハ毎年四季ニ大會ヲ開ク之ヲ四季會ト稱ス然レトモ市長又ハ市參事會員五名以上ノ要求アルトキハ何時ニテモ開會スルコトヲ得市參事會ノ權限左ノ如シ

第一 市條例ヲ制定スルコト但樞密院令ヲ以テ市條例ヲ廢止スルヲ得

第二 市有財産ノ管理警察事務市税ノ徵收公債ノ募集其他一切ノ行政事務

第三 民事及ヒ刑事ノ訴訟ヲ判決ス

### 第四章 警察

警察トハ獨逸語ノ(ポリツアイ)ト同一ノ意義ニシテ(ポリツアイ)トハ現今内務行政ノ一部就中主トシテ消極的ノ性質ヲ有スル行務ノ總稱トスレトモ元來此語ハ古代希臘語ノ(ポリチャ)ニ淵源シ國家全體ヲ總稱シタルモノナリ而シテ當時ニ在テハ現今ノ如ク警察ナルモノアラサリシカ降テ中古ニ至リ此語ノ意義ハ變シテ王家ノ權力ヲ施行スル權謀術數ノ名稱トナリタリ爾後更ニ十八世紀ニ至リ國家カ政治ヲ行フ命令庶務其他一切ノ政府ノ行爲ヲ總稱スルノ謂トナリ

(註養老二年大寶律令ノ編纂實施アリテ以來(一)聖武ノ天平元年初メテ囚徒ヲ左右ノ衛府ニ拘留シ(二)同七年帝信佛ノ餘天下ヲ大赦シ爾來災祥アル毎ニ赦ヲ行フノ先例ヲ殘シ(三)光仁ノ寶龜ニ至リ勅文ニ行火盜賊ハ宜シク衆ニ示シ格殺シテ以テ後惡ヲ懲ラス可シトアリ成文ノ脅赫主義ヲ現シ(四)桓武ノ延曆十年律令二十四箇條ノ改正アリ翌年判決例八十ヲ彈正臺ニ下セリ同二十年惡ノ赦ヲ廢シ(五)嵯峨ノ弘仁中再ヒ律令ノ改正アリ始メテ檢非違使ヲ置ケリ(六)朱雀村上ノ朝ニ至リテハ刑制甚タ弛緩セル事迹アリ(七)安德ノ朝賴朝政權ヲ握ルニ至リ俄然形勢ヲ一變ス

大寶律ノ明文ニ見ユル贖銅ノ制度ニ就テハ特ニ一言スヘキモノアリ多數ノ學者ハ赦除ノ具ヲ徵收スルノ主旨ト贖銅ヲ以テ他ノ刑罰ヲ購フコトヲ許セル主旨トノ間ニ區別ヲ立テスシテ共ニ之ヲ歐羅巴ノ古法ニ所謂贖罪制度ト同一視ス然レトモ上古赦除ノ制ハ一種ノ刑罰ニシテ固ヨリ他ノ刑罰ニ換ヘタルモノニ非ス又其赦具ハ政府ノ所得トナスノ主旨ニ非サリシヲ見レハ大寶律ノ贖銅トハ大ニ相違スル點ナキヲ得ス贖銅ハ一種ノ換刑ナリ現今ノ罰



金ハ禁錮ニ換フルコトヲ許シ大寶ノ時代ニハ死徒流苔杖ヲ財産刑即チ贖銅ニ換フルヲ許セシモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ我國上古ノ祓具ハ贖銅ノ制ト全ク別物ニシテ歐洲ノ贖物ニ比スヘキモノハ大寶ノ贖銅ナランカ

〔三十三〕 第二期第二段 大寶ノ律令ハ其實施以後時ニ修正アリ適用ニ弛張アリシト雖モ成文トシテ普ク國內ニ行ハレタル一ナリ然ルニ後鳥羽ノ朝建久元年十一月源賴朝ノ總追捕使トナルヤ司法權ノ大部分ハ兵馬ノ實權ト共ニ專ラ幕府ニ委任スル所トナリ律令ハ唯朝臣公卿ノミチ支配スル法則ト成リ又賴朝司法ノ大權ヲ委任サル、ノ初ハ全ク不文ニ諸事ヲ截斷セシカ北條氏執權トナルニ及ヒ泰時ノ主唱ニ因リ政所問注所侍所其他ノ吏員ニ對スル内規ノ選定ニ著手シ、貞永年間ニ成ル、其條目五十一、貞永式目是ナリ

貞永式目成リテ大寶律令ハ徒文ト成レリ式目ノ主義ハ暗ニ正義ヲ以テ法制ノ基本ト認メタルモノ、如シ即チ犯罪トハ不正ノ所爲ヲ謂フモノニシテ刑罰ハ不正ノ所爲ニ伴フ惡報ニ外ナラス此一點ニ付テハ親疎貴賤ニ因ツテ別チ立ツヘキモノニ非スト認メシニ似タリ然リト雖モ夫ノ遠ク歐洲中世ノ宗教主義ニ

養成サレタル刑ハ一身ニ止ル、法ノ前ニハ四民同等ナリト云フニ大原則ノ如キハ當時固ヨリ行ハル、克ハサリシナリ○式目ノ範圍ニ付キ其支配スル人ヨリ云ヘハ守護地頭及ヒ其配下、并ニ將軍ノ家人ニ及ヒ、土地ヨリ云ヘハ莊園私領、恩地ニ及ヒ、事ヨリ云ヘハ公卿朝臣ニ關セサル刑事々件ノ全體、并ニ將軍支配ノ土地ニ關スル訴訟ニ及ヒタリキ而シテ式目ハ北條氏亡ヒ足利氏將軍ノ職ニ就クモ應仁ノ頃迄ハ陰ニ陽ニ其命脈傳ハリシト雖モ應仁以來天下大亂ノ暗黒時代ニハ刑史見ルヘキ事迹ナシ下ツテ徳川幕府ノ盛時ニ至レハ大寶律ノ殘篇ト共ニ式目モ亦再ヒ世ニ現ハレテ其規定ノ多少ハ慣用サレタルニ似タリ

〔註〕北條氏亡ヒ足利氏ノ之ニ代ルヤ大抵ハ貞永式目ヲ摸範トシタル内規撰定ノ企アリシハ疑ナシ建武式目ハ恐ク此企アルニ際シ臣下ヨリ尊氏ニ提出シタル意見書ナラン尊氏カ更ニ之ヲ臣下ニ訓示シタルノ事迹傳ハラスト雖モ實際ハ之ニ因テ事務ヲ經理セシカ如シ新加制式ト稱スル書籍ハ建武式目ニ因ツテ處理シタル事迹並ニ單行法ヲ集メシモノニシテ今日ニ傳ハレリ(修史局藏)



應仁以降諸侯相割據シテ戰亂ノ代トナルヤ刑法亦諸侯ノ隨意ニ定メタルモノ行レシト雖モ大體ハ貞永ノ式目其他建武以降ノ單行法ニ據レルコト信玄百ヶ條、長曾我部、毛利氏法制等ヲ參照シテ知ル可シ○豐臣氏織田氏ノ頃ニ就テハ特ニ述フヘキモノアラズ

〔三十四〕第二期第三段 德川氏ノ司法事務ヲ掌レルハ北條氏ト其趣同シカラサルモノアリ北條氏ハ公家ヲ以テ全ク其支配ノ外ニ立タシメタリト雖モ德川氏ハ三親王、攝家、公家、諸侯ヲ支配セシモノ、如シ(德川氏ト朝廷トノ關係ヲ定メタルモノトシテ世ニ公○武○法○制○ト云フモノヲ傳ヘ古代法註釋ヲ著者有賀氏モ之ヲ載セラレタリト雖モ此公○武○法○制○十○八○ヶ○條○ハ○全○ク○後○人○ノ○僞○作○ナル○可○シ○現○ニ○條目○中○家○康○存○命○中○ニ○存○在○セ○サ○リ○シ○寛○永○寺○即○チ○上○野○東○叡○山○云○々○ノ○語○ア○リ○其○他○之○ニ○類○似○ス○ル○僞○作○ノ○證○據○尠○カ○ラ○サ○ル○ヲ○以○テ○我○輩○之○ヲ○準○據○ト○セ○ス○)而○シ○テ○德○川○氏○刑○法○即○チ○御○定○書○百○箇○條○ノ○大○體○ヲ○考○フル○ニ○(一)當○時○固○ヨ○リ○刑○罰○權○ノ○基○本○ニ○關○ス○ル○問○題○ヲ○哲○學○的○ニ○研○究○ス○ル○カ○如○キ○コ○ト○無○キ○ヲ○以○テ○正○不○正○ノ○觀○念○ヲ○無○二○ノ○眞○理○ト○シ○罪ニ刑罰アルハ應報自然ノ理ナリトスル賠償主義ヲ採用セシヤ疑ナシ(二)而シテ

法ハ時勢ニ應シ寬嚴ノ度ヲ異ニセサル可カラサルモノナルカ故ニ王朝ノ刑罰制度ハ當時戰亂ノ後ヲ享ケタル臣民ニ對シ寬ニ失スルモノト認メ大寶ノ律ノ殘篇、貞永ノ式目其他ノ慣例ハ斟酌スヘキモ必スシモ之ニ據ルナカメス(三)故ニ刑罰ノ如キ大寶ノ成文ニハ死刑、只絞斬ノ二アリシニ過キサレモ御定書百箇條ハ火磔、鋸引、斬罪、自裁、死罪、下手人、ノ七死刑ヲ認ム蓋シ刑法ノ基本ハ正義ニ在リト認メタルニ拘ラス刑罰ヲ以テ罪惡心罰ノ例ヲ示シ後惡ヲ遏止スルノ具トシタル一點ハ純正主義ニ非スシテ其實不知不識ノ間ニ折衷主義ヲ採用セシモノト評スルヲ得ン(四)百箇條ハ其與書ニモ「奉行之外不可有他見……」トアリ一般ニ公示シタルモノニ非ス、治罪ノ手續ニ拷問ヲ許シ、刑ハ時ニ犯人ノ親族ノ外平常其品行ヲ監督スルノ任アル他人(例ヘハ名主、五人組等)ニ及ヒ、主人武士尊屬親等ノ資格ヲ有スルモノヲ厚ク保護スルノ結果此等ノ者カ罪ヲ犯スモ輕ク罰シ此等ノ者ニ對スル罪ハ嚴刑ヲ科シタリ(五)德川氏ノ外諸侯亦刑罰權ヲ有シ各藩ノ刑法アリシト雖モ其大體ハ固ヨリ德川氏ノ刑法ニ大差ナシ

明治ノ初年王政復古ノ一大革命アルモ刑律ハ暫ク幕府ノ舊ニ依レリ然レトモ



此頃ヨリ漸次刑法ハ之ヲ汎ク世人ニ示スノ方針ヲ取リ(元年十月晦日布達參照)且百箇條ノ中嚴ニ失スル點ヲ改正スルノ目的ヲ以テ刑法官ハ假刑律ヲ撰シタリシカ假刑律ハ新律綱領ノ成ルト共ニ廢止セラレタリキ

(三十五) 第二期第四段 明治三年十二月二十日ノ上諭ニ基キ同月二十七日綱領六卷ノ頒布アリ之ヲ新律綱領ト云フ之ニ因リテ我國ハ大寶律令以來再ヒ成文法國トナレリ新律綱領ノ主義ハ尙支那法理ヲ折衷シタルモノニシテ大寶ノ主旨其大部分ヲ占ム之ヲ支那法理折衷時代ノ最終トス

(三十六) 第三期 明治三年新律綱領ノ頒布アリシカ其主旨ニ至ツテハ大ニ支那法制(明清律)ヲ折衷サレタリ然ルニ改定律例ニ至リ更ニ歐羅巴法理ヲ折衷シタル成文法ノ實施ヲ見ルニ至レリ改定律例ハ明治六年六月十三日布告第二百六號ニ因ツテ公布サレ同年七月一日ヨリ實施サレ之ニ矛盾セサル部分ニ限リ新律綱領ハ共ニ其效アリシカ明治十三年七月布告第三十六號ヲ以テ現行刑法ノ公布アリ同十五年一月一日其實施ヲ見ルニ至ツテ廢止サレタリ改定律例モ現行刑法モ共ニ歐羅巴法理ヲ折衷セルニ拘ハラヌ兩者ノ規定甚タ趣チ異ニ

セル點アリ特ニ改定律例時代ニハ尙ホ場合ヲ限ツテ擅斷主義ヲ採用セリ(四十九號參照)尙ホ明治ノ初年以降ニ於ケル刑制ノ變化ハ現行法ヲ説明スルニ方リ各部ニ附記スル所ヲ參照セラレ可シ (緒論了)

(三十七) 現行刑法總則講義ノ順序ノ大略左ノ如シ

- 第一編 犯罪 第一章―犯罪ノ定義、第二章―犯罪ノ主體並ニ客體、第三章―犯罪ノ成立要素、第四章―犯罪ノ種類
- 第二編 刑罰 第一章―刑罰ノ定義、第二章―刑罰ノ種類、第三章―刑罰ノ適用、第四章―刑罰ノ消滅
- 第三編 犯罪並ニ犯人ノ多數 第一章―一人數罪、第二章―數人一罪



件ヲ充タス克ハス夫レ然リ自己若クハ他人ノ債權ヲ主張セスシテ貸金ヲ受取  
 リ若クハ其利息ヲ受取リ若クハ其他ノ義務ヲ辨濟セシムルヲ得ンヤ有體物ヲ  
 所持セスシテ行使スルコトヲ得ル抵當權ノ如キ物權ヲ自己若クハ他人ノ權利  
 ナ主張スルコトナクシテ行使スルヲ得ンヤ自己若クハ他人ノ爲メニ權利ヲ主  
 張セス若クハ毫モ權利ノ觀念ナクシテ其外形所謂民法上ノ權利行使ト同一ナ  
 ルモノハ獨リ有體物ノ所持ニ止マラサル可カラス是即チ第百八十四條第一項  
 ニ有體物ノ所持ヲ舉ケテ權利ノ行使ヲ舉ケサル所以ナリ

第二問 自然ノ占有ノ心外ノ條件カ有體物ノ所持ト云フ事實ナラサル可カラ  
 ストセハ我輩カ占有ニ下シタル定義(總論)ニ占有ハ權利ノ行使ナリト云ヘルハ  
 不當ナルコトナキヤト云フ第二ノ問題ヲ生ス然レトモ法典ニ所謂有體物ノ所  
 持ハ之ヲ民法上ノ關係トシテ考フルニ其實權利ノ行使ニ外ナラスシテ有體物  
 ノ上ニ存スル所有權若クハ處分權ヲ行使スルモノタルハ總論ニ於テ既ニ之ヲ  
 一言セリ但シ自然ノ占有ニ付キテハ自己若クハ他人ノ爲メニ權利ヲ主張スル  
 意思ナキコトヲ必要トスルカ故ニ單ニ一ノ事實ノ外形ヲ民法的關係ヨリ觀察



シテ之ヲ權利行使即チ所有權若クハ處分權行使ノ外形ニ比諭シタルモノト知ル可シ

所持スル所ノ有體物ノ上ニ存スル所有權若クハ處分權カ一私人ニ屬スル克ハサル性質ノモノタルトキハ占有者カ其權利ヲ自己ノモノト主張シ以テ法定ノ占有ヲナスト主張セントスルモ到底其意思ハ無益ニ歸スルヲ以テ此種ノ財產ノ上ニハ自然ノ占有ノ外ノ占有ヲ爲スコトヲ得ス公有物ハ其一例ナリ(第八十四條第二項)

而レトモ他人ノ爲ニ權利ヲ主張スルコトヲ得ハ容假ノ占有成立スルコトヲ得ヘク第百八十四條第二項ノ規定ハ狹キニ失スル無キヤノ主張スルアリトス他ノ官吏カ國家ノ機關ニシテ公有物ノ權利ヲ國家ノ爲ニ主張スルノ關係ニ非ラズモ國家ハ民法上ノ權力ノ關係ナルカ爲ニ此ノ如キ規定ヲ設ケタルモノナラズラ命令服從ト云フ權力的關係ナルカ爲ニ此ノ如キ規定ヲ設ケタルモノナラズカ但シ草案ノ主義ニ因レハ容假ノ占有ハ自然ノ占有ノ一種ハト認メタルヲ以テ公有物ハ容假ノ占有ハ之ヲナスコトヲ得ヘキモ法定ノ占有ノ一種ハト認メタルヲ以テニ容假ノ占有ハ之ヲナス如シ換言シレハ公有物ハ自然ノ占有ニ似タリ

自然ノ占有ハ一箇ノ事實ニ過キスシテ權利ニ非ス何トナレハ之ヨリ或ル利益ヲ生スルコトアリトスルモ法律ハ之ヲ保護セサルヲ以テナリ特ニ自己若クハ

他人ノ爲メニ物權ヲ主張スルノ意ナクシテ有體物ヲ所持スル如キ所爲ハ之ヨリシテ法律ノ保護スル必要アル程ノ利益ヲ惹起ス克ハサルモノトス

其三 容假ノ占有

第八十五條第一項ハ容假ノ占有ノ定義ヲ掲ゲテ曰ク(容假ノ占有トハ占有者カ他人ノ爲メニ其他人ノ名ヲ以テスル物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ)ト此規定ニ基キ容假ノ占有ノ心内ノ條件ト心外ノ條件トヲ講述セントス

心外ノ條件ハ三種ノ占有ヲ通シテ一ニ權利ノ行使ト云フニ歸ス然レトモ法典ノ用語ノ如ク權利行使ヲ狹義ニ用ユルトキハ權利行使ノ外ニ有體物所持ト云フ條件アリ自然ノ占有ノ心外ノ條件ハ此有體物ノ所持ニ限ルノ理由ハ前段ニ述ヘタリ爰ニハ心外ノ條件ニ付キ法定ノ占有ニ關スル規定ト容假ノ占有ニ關スル規定トヲ比較シテ其異同ヲ辯セン

法定ノ占有ノ心外ノ條件ニ付キ第百八十條ノ規定ヲ見ルニ(……有體物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ)トアリ容假ノ占有ニ付キテハ第百八十五條ニ(……他人ノ名ヲ以テスル物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ)トアリ爰ニ於テカ先ツ第百八



十條ニ所謂……有體物ノ所持ト第百八十五條ニ所謂……物ノ所持トハ同一ナルヤ否ヲ論決シ次ニ(他人ノ名ヲ以テスル)トハ如何ナル意義ナルガヲ示サシトス

夫レ物ハ數多ノ點ヨリ觀察ヲ下シテ數多ニ種別スルコトヲ得然レトモ人ノ感官ニ觸ル、ト智能ノミヲ以テ理會スルトノ點ヨリ觀察スルトキハ有體物無體物ノ二種トナルニ過キス即チ無體物ニ非サルモノハ有體物ナリ有體物ニ非サルモノハ無體物ナリ(六)翻ツテ第百八十五條ヲ見ルニ……物ノ所持又ハ權利ノ行使ト云ヘリ物ハ盡ク無體物ナリト云フヲ得サルモ權利ハ盡ク無體物タルヲ以テ即チ本條ニ所謂物ノ所持ハ有體物ノ所持及ヒ權利以外ノ無體物ノ所持ヲ意味スルトセンカ到底有體物ニモ非ス權利ニモアラサルモノハ法律上之ヲ所持スルト云ヒ難シ之ヲ要スルニ第百八十五條ノ有體物ノ所持ト第百八十五條ノ物ノ所持トハ同一ノ意味ヲ有スルモノト云ハサル可カラス

第百八十五條ノ規定ニ因リ容假ノ占有ノ成立スルニハ有體物ヲ所持シ又ハ權利ヲ行使スルニ他人ノ名ヲ以テセサル可カラス即チ容假ノ占有者ハ合意(代理

契約等)若クハ法律ノ規定後見人ニ關スルモノ、如キニ因リ他人ノ機關トナリ自己ノ所爲ヲ以テ本人ノ所爲ト法律上同一ノ效力ヲ生セシムルモノタルヲ要ス而シテ自己ノ所爲ヲ他人ノモノトスルト否トハ主トシテ占有者ノ心内ノ條件如何ニ牽連ス

心内ノ條件ニ付キ法定ノ占有ニハ自己ノ爲ニ有スルノ意思ナカル可カラサルコトハ前ニ述ヘタリ(第百八十五條第一項)之ニ反シテ容假ノ占有者ハ他人ノ爲メニ有スルノ意思アルコトヲ必要トス(故ニ自然ノ占有ニ付キ法文ニハ自己ト雖モ同時ニ他人ノ權利ヲ主張スル事ナクシテ云トイフ思ナキコトヲ必要トスルヤ知ル可シ)即チ一ノ占有ヲナスニ方リ其心内ニ自己ノ爲ニ有スルノ意思アルトキハ法定ノ占有トナリ他人ノ爲ニ有スルノ意思アルトキハ容假ノ占有ナルモノニシテ初メ他人ノ爲ニ有スル意思アリ從ツテ容假ノ占有ヲナシタルモノモ後ニ變シテ自己ノ爲ニ有スルノ意思ヲ生スルトキハ其占有變シテ法定ノモノトナルナリ(第百八十五條第二項)

爰ニ一ノ問題ヲ生ス曰ク他人ノ爲ニ他人ノ名ヲ以テ物ヲ所持シ又ハ權利ヲ行使スルカ容假ノ占有タルトキハ他人ニ所有權アルヲ認メテ支分權ヲ行使スル



者若クハ他人ニ所有權アルヲ認メサレハ自己ニ其支分權ノミ專屬スルト主張スル克ハサル支分權ヲ行使スル者ハ容假ノ占有者ナリヤ法定ノ占有者ナリヤ今其例ヲ示シテ問題ノ意味ヲ明瞭ナラシメントス

動産質權、不動産質權、抵當權、用益權、地役權、賃借權、永借權、地上權ノ如キ支分權ノミ自己ニ屬スルモノト主張セントセハ勢ヒ他人ニ所有權アルコトヲ認メサル可カラス夫レ然リ何人カ自己ニ所有權アルモノヲ質物トシテ己カ所持スルモノアラシヤ此ノ如ク他人ニ所有權アルヲ認メサル可カラサル支分權ノ行使ハ法定ノ占有ナリヤ將タ容假ノ占有ナリヤ

此問題ニハ一ノ區別ヲ立テ、答ヘサル可カラス

夫レ用益權其他右ニ列舉セル支分權ニ至リテハ右ニ述フル如ク他人ニ所有權アルヲ認メサルトキハ成立セサルモノナリ己カ此等ノ支分權ノミナ有スト主張スルハ取モ直サス他人ニ其所有權アルコトヲ自白スルモノナリ故ニ其所有權ヲ行使スルニハ到底他人ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ行使セサル可カラス從ツテ所有權ヲ行使スルハ容假ノ占有ナリ否容假ノ占有ニ非サレハ所有權ヲ行使

スルニ付キ成立スル克ハサルカ故ニ之ヲ權原ノ性質ヨリ來ル容假ノ占有ト云フ(第百八十五條第二項)

然リト雖モ所有權ニ非サル用益權若クハ質權其他先ニ舉ゲタル支分權ノ如キ支分權ニ至リテハ用益權者若クハ質權者カ之ヲ行使スルハ自己ノ爲メニスルモノナリ合意若クハ法律ノ規定ニ因リ自己カ此等ノ支分權ヲ獲得シタルカ若クハ獲得シタリト主張シ自己ノ有ニ歸セシムルノ意思ヲ以テ行使スルモノナリ從ツテ其支分權ヲ行使スルハ自己ノ爲メニスルコトヲ得自己ノ爲メニスルトキハ法定ノ占有トナルモノニ非スシテ何ソヤ第百八十條第一項カ法定ノ占有ノ成立ニ必要ナル條件ヲ掲クルニ當リ占有者ニ行使スル權利ヲ自己ノ有トナスノ意思ナカル可カラサルコトヲ規定スト雖モ其行使スル權利カ所有權ナラサル可カラサルコトハ規定セス管ニ完全所有權ニ限ラサルノミナラス汎ク物權人權ト云ヒ以テ支分權及ヒ債權ヲ行使スルモ自己ノ爲ニスルトキハ法定ノ占有タルコトヲ示セリ

之ヲ要スルニ日本民法ノ主義ヲ以テ云フトキハ動産質權、不動産質權、用益權、賃



借權、永借權、地上權、地役權ノ名義ヲ以テ有體物ヲ所持スルモノハ其有體物ノ所  
 有權ニ付キテハ容假ノ占有ヲ有シ右ノ支分權ニ付キテハ法定ノ占有ヲ有スル  
 モノナリ(但シ注意スヘキ點アリ)以上ノ支分權ニ付キテモ若シ他人ノ名ヲ以テ  
 他人ノ爲ニ行使スルトキハ勿論容假ノ占有トナル即チ代理人事務管理人トシ  
 テ此等ノ支分權ヲ行使スルトキハ容假ノ占有ナリトス  
 ナ羅馬法及ヒ佛國民法ヲ以テ論スル日本民法ハ支分權ヲ行使スル者ハ容假ノ占有者  
 ナリト云ハサル可カラズ而テ日本民法ニ於テハ支分權ヲ行使スル者ハ若シ日本  
 已ノ爲ニスルノ意ナラハ法定ノ占有ト立スルヤト本文ニ述フ如シ故ニ若シ日本  
 法ヲ以テ答ヘントスレハ先ツ第一ニ其行使者ノ自己ノ爲ニシタル他人ノ爲  
 ニシタルト答ヘントスレハ先ツ第一ニ其行使者ノ自己ノ爲ニシタル他人ノ爲  
 ラス此點ニ付テ反對此ニ主張スル  
 學權者アル點ニ付テ特ニ此ニ言スル  
 寄託使用貸借其他目的契約ノ存返還スル義務アリテ債務者カ敢テ目的物上  
 ノ權利ヲ取得セサル契約ノ存返還スル義務アリテ債務者カ敢テ目的物上  
 使スル場合ト右ニ述フ支分權行使スル場合ト又ハ混同ス可カラズ行使者若  
 クハ使用借主トカ物ヲ所持シ又ハ權行使スルハ寄託者又ハ貸主ノ權利ヲ行使スル  
 容假ノ占有者ナリトス  
 容假ノ占有ハ法定ノ占有ノ如ク正權原ノモノ無權原ノモノ善意ノモノ惡意ノ  
 モノ瑕疵ノモノ無瑕疵ノモノヲ細別スルノ實益ナシ何トナレハ此ノ如キ占有

ニシテ其辨濟ヲ果サ、ルトキハ債權者ハ債務者ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ公賣シテ  
 其所得ヲ債權者間ニ分配スルコトヲ得ルノ謂ヒナリ故ニ差押ユルコトヲ得ル  
 モノトハ強賣ヲ求ムルコトヲ得ルモノニシテ差押ユルコトヲ得サルモノトハ  
 強賣ヲ求ムルコト能ハサルモノナリ之ヲ區別スルノ實用モ亦此點ニ過キス然  
 ラハ如何ナルモノハ差押ユルコトヲ得ルモノニシテ如何ナルモノハ差押ユル  
 コトヲ得サルモノナルヤハ民事訴訟法強制執行ノ部ニ於テ詳細ニ規定スル所  
 ナリ又取得編第六十四條ノ規定ニ依レハ終身年金權ノ如キハ當事者ノ意思  
 ニ依リテ差押スルコトヲ得サルモノトスルコトヲ得  
 以上説明スル所ニ依リテ財産ノ目的タル物ノ區別ニ付キ講了セリ以下編ヲ更  
 メテ物權ノ講義ニ入ラントス

第二章 物權

第一章 所有權

所有權ナル語ヲ廣義ニ解釋スルトキハ自己一人ニテ專有スル義ニシテ此解釋



ニ依レハ自己ニ屬スルモノハ悉ク所有權ナラサルモノハナク用益權賃借權ノ如キ物權ト雖モ又債權ノ如キ人權ト雖モ悉ク我所有權ノ目的タル可キカ故ニ所有權トハ即チ財產ナリト云フト毫モ異ナルコトナシ

今此廣義ノ所有權ニ關シテ研究ス可キ二問題アリ第一所有權ハ正當ニシテ又必要ノモノナルヤ否ヤ第二所有權即チ財產私有ノ制度ハ古來如何ニ變遷シ來リタルヤ之吾人ノ大ニ研究ヲ要スヘキモノナリ前者ハ正ニ所有權ノ基本ニ關シ後者ハ所有權ノ沿革ニ關スル問題ナリトス

第一所有權ノ基本ニ關シテハ古來學者ノ見ル所各一樣ナラス然レトモ其學說ノ種々異ルハ所有權ノ正當ナルヤ否ヤニ付議論ノ岐ル、ニアラスシテ要スルニ執レモ所有權ノ正當ナル所以ヲ説明スル上ニ於テ其見ル所ヲ異ニスルニアリ凡ソ人類相集リテ一ノ社會ヲ組成シ社會漸ク發達シテ國家ヲナス國家ノ存スル所必ス所有權ノ行ハレサルハナシ然ラハ即チ所有權ノ正當ニシテ且必要ナルコトハ殆ト自明ノ理ニシテ更ニ之ヲ説明スルノ要ナキカ如ク見ユルモ近世ニ至リ所有權ノ制度ヲ破壞セントスル一派ノ論者表ハレ所有權ヲ其根本ヨ

リ攻撃シ而シテ雷ニ學理上之ヲ主張スルノミナラス實際ニ其所論ヲ應用セントスルモノアルヲ見ルニ至レリ現ニ今日歐洲諸國ノ社會黨(ソシヤリスト)共產黨(コンミュニスト)及ヒ虛無黨(ニヒリスト)ノ如キモノ即チ然リ彼等ハ所有權ヲ其根本ヨリ破壊シ而シテ之ヲ實際ニ行ハント計畫シツ、アルモノナリ故ニ今日ニ於テ所有權ノ基本ヲ論究スルハ決シテ無用ノ業ニアラスト思惟ス今反對論者ノ唱フル所ヨリ説明センニ或ル論者ハ曰ク凡ソ天地間ノ物ハ悉ク人類ノ共通ノ用ニ供シタルモノナリ故ニ何人ト雖モ共ニ之カ利益ヲ享受スルコトヲ得ヘク何人ト雖モ獨リ之ヲ私有スルコトヲ得ス之ヲ私有スルモノハ人類公共ノ貨物ヲ私シ之ヲ盜掠スルモノナリト又或論者ハ曰ク人類ハ悉ク平等ナリ故ニ其有スル所ノモノモ亦平等ナラサルヘカラス然ルニ一方ニハ巨萬ノ財寶ヲ貯フル者アルモ他ノ一方ニ赤貧洗フカ如キ生計ヲナスモノアリ是決シテ平等ノ原理ニ適シタルモノニアラスト或他ノ論者ハ又曰ク人類ハ各自生命ヲ保持スルノ權利アリ然ルニ財產ノ配當不均一ナルカ爲メ一物ヲモ有セサル吾人ハ自カラ生命ヲ保ツニ由ナシ吾人ハ元ヨリ安樂逸居シテ他ノ救助ヲ希フ者ニア



ラサルモ財産ナキ身ハ折角自ラ労働シテ其生命ヲ保タント欲スルモ能ハサル  
 ナ如何セン故ニ社會ハ宜シク此等ノモノニ對シテ業務ヲ與ヘ各人ヲシテ自由  
 ニ労働セシメ以テ其生命ノ安全ヲ計ラサルヘカラス之社會カ一己人ニ對スル  
 ノ本分ナリト之ヲ要スルニ反對論者ノ主張スル所ハ悉ク所有權制度ヲ破壊シ  
 テ總テノ財産ヲ舉ゲテ一般人民共通ノ用ニ供スヘシト云フニ歸ス此ノ如キ制  
 度ハ果シテ正當ナルヤ又之ヲ實行スルコトヲ得ヘキヤ否ヤ之大ニ吾人ノ研究  
 ヲ要スヘキモノトス

反對論者ハ曰ク天地間ノ事物ハ人類共通ノモノナルヲ以テ何人ト雖モ其利益  
 ナ享有スルコトヲ得ルカ故ニ復タ何人ト雖モ之ヲ私有スルコトヲ得スト然リ  
 勿論天地間ノ事物ハ人類共通ノモノナリ然レトモ吾人ハ言ハントス共通ノモ  
 ノナルカ故ニ吾人ハ労働ニヨリテ之ヲ私有スルコトヲ得可シ他人ノ之ヲ侵害  
 シ之ヲ奪掠スルコトヲ許サスト論者ハ又曰ク凡ソ人類ハ平等ナリ故ニ各人ノ  
 所有スル所ノモノモ亦平等ナラサルヘカラスト然リ素ヨリ吾人々類ハ平等ナ  
 リ然レトモ其平等ナル所以ハ法律上對等ノ地位ニアルト云フコトニシテ敢テ

人類ニハ強弱ナク貧富ナシト云フコトヲ得ス貧富ハ強弱ニ隨伴スルモノニシ  
 テ強弱ノ差別アルハ吾人々類ニ免ルコト能ハサルモノナリ強者アリ弱者ア  
 リテ茲ニ労働ノ多少ヲ來シ而シテ労働ノ多少ハ即チ貧富ノ差ヲ致ス所以ナル  
 カ故ニ法律上平等ナル吾人モ強弱貧富ノ定數ニ違フ能ハサルヲ知ル可シ第三  
 論者ハ曰ク吾人々類ハ生命ヲ保全スルノ權利アリト是亦吾人ト雖モ主張スル  
 所ナリ何トナレハ吾人ハ他人ノ救恤愛憐ヲ請フテ自ラ養フノ權利ヲ有セス又  
 自ラ何事ヲモ爲サスシテ生活スルコト能ハサルモノナレハナリ必スヤ衣食住  
 ノ需要ヲ充タスノ必要アル以上ハ吾人ノ固有ノ力ヲ以テ之ニ應スルノ外ナキ  
 カ故ニ吾人ノ労働ニヨリテ收得スル所ノモノハ吾人ヲシテ獨リ之ヲ私有セン  
 メサルヘカラス然ラスシテ他人ト共ニ之ヲ分配シ労働セサルモノモ亦労働ノ  
 結果ヲ享クルコトヲ得セシメハ何人ト雖モ労働スルモノナキニ至ルヘシ猶ホ  
 最後ノ論者ハ曰ク社會ハ宜シク吾人ニ事業ヲ與ヘテ而シテ自由ニ労働セシメ  
 以テ其自由労働ヨリ生シタル結果ニヨリテ各自ヲシテ自由ニ生命ヲ保ツコト  
 ヲ得セシメサルヘカラス之社會ノ一己人ニ對スル本分ナリト然レトモ論者ノ



所謂自由労働トハ果シテ眞正ナル自由労働ト云フヲ得ヘキヤ論者ハ社會カ本分トシテ各人ニ事業ヲ與ヘヨト云フト雖モ故ラニ一方ニ事業ヲ與フルハ即チ他方ニ於テ事業ヲ奪フモノニ非サルナキヲ得ンヤ而シテ余輩ノ所謂自由労働トハ吾人カ生ナカラニシテ有スル所ノ智力ト體力トニ應シテ労働スルモノニシテ之ニヨリテ生命ヲ保全スルコトヲ得ルモノハ即チ自由ニ生命ヲ保ツモノト云サハルヘカラス而シテ智力ト體力トハ人ニヨリテ優劣アルモノナルヲ以テ從テ自由労働ニヨリテ得タル結果モ自カラ異ナラサルヘカラス然レトモ此ノ如キ不平等ヲ來スハ毫モ理ニ於テ缺クル所ニアラス其愈々労働シテ得ル所愈々多キヲ致スモ決シテ他人ヲ害シテ得タルモノニアラサルヲ以テナリ縱シ又一步ヲ讓リテ試ニ論者ノ主張スル所ノモノヲ實際ニ施サントスルモ各人ニ事業ヲ與ヘテ労働ヲ爲サシメンニハ如何シテ其事業ヲ分配スルコトヲ得ルヤ縱シ一朝之ヲ分配スルコトヲ得ルトスルモ上ニ述ヘタル如ク智力及ヒ體力ノ相異ハ労働ノ多少ヲ招キ労働ノ多少ハ貧富ノ不平等ヲ來ス故ニ恰モ事業ヲ分配セサルノ以前ト同一ノ状態ニ復セサルヘカラス然ラハ則チ論者ノ言ハ云フヘク

シテ行フコト能ハサルノ説ト云ハサルヘカラス以上駁撃シタル所ヲ更ニ約言セハ吾人ハ生命ヲ保全スル權利ヲ有ス然レトモ他人ノ憐ミヲ受ケテ自ラ養ハル、ノ權利ナシ故ニ吾人カ自ラ労働シテ自ラ得タル所ノモノハ吾人ヲシテ獨リ之ヲ私有セシメサルヘカラス其得ル所ノ多少ハ毫モ論スルニ及ハサルナリ何トナレハ之吾人ノ固有ノ智力ト體力トニヨリ自由労働ニ基キテ得タル結果ナレハナリ原因既ニ均一ナラサル以上ハ其結果ニ於テ差異ヲ見ルハ自然ノ理ニシテ人爲ノ左右スルコト能ハサルモノナリ而シテ吾人ノ得ル所多少ヲ問ハス各人ノ專有ニ歸セシメサルヘカラストスル以上ハ從テ又各人ヲシテ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得セシメサルヘカラス何トナレハ吾人カ獨リ之ヲ所有セント欲スルハ單ニ其物ヲ所持センカ爲メニアラスシテ自己ノ利益ニ供シ幸福ヲ増進セントスルヲ以テナリ故ニ其物ヲ所有スルモノ之ヲ處分スルコト能ハストセハ初ヨリ所有セサルト毫モ異ナルコトナシ之ヲ所有スルノ結果トシテハ必スヤ之ヲ處分スルコトヲ得セシメサルヘカラス



然レトモ所有權ノ基本ヲ論スルニ當ツテハ前述セル如ク古來學者ノ論スル所一ニシテ足ラス學派ノ異ナルニ從ツテ各其所説ヲ異ニス然レトモ要スルニ諸學者ノ主張スル所ハ各其觀察ノ點ヲ異ニセルノミニシテ所有權即チ財產私有制度ハ至當ノモノニシテ且必要ノモノタル斷定ナ下スニ付キ其論據ヲ異ニスルニ外ナラス

今茲ニ從來行ハレタル諸説ヲ列舉セハ凡ツ左ノ如シ

第一 無主物先占ノ説

此説ノ主意トスル所ハ原始社會ニ於テハ一切ノ事物未タ所有權ナシ天地間ノ物悉ク無主物ニシテ人類ハ一般ニ之ヲ使用スルノ權利ヲ有セリ從テ他人ノ之ヲ占領スルニ先ツテ其物ヲ占有セタルモノハ之ニ對シテ特別ナル關係ヲ生スルト共ニ格別ナル權利ヲ獲得ス故ニ所有權ノ基礎ハ無主物先占ニアリト此説タル羅馬法時代ニ於テ既ニシセロノ主張スル所ニシテ中世ニ至ツテハ佛蘭西ノグロチス獨逸ノビルラマキ等ノ主張セル所ナリ

第二 契約説

擴張ニ利アルカ如シ實ニ公衆ノ便利ニ就クハ猶ホ水ノ低キニ就クカ如シ又何ソ疑ハシヤ其他文物ノ進歩ニ依リ商家ニハ高等簿記者ヲ要シ傳話器電氣燈ノ如キ新事業ニ對シテハ往日ニ要セサリシ所ノ技師技手ヲ要シ世運ノ進歩ニ隨ヒ高等勞力者ノ需要亦大ニ増加ス實ニ人類ノ幸福ト云フヘシ人智ノ發達ト富ノ増加ハ自然ニ高等品ノ需要ヲ惹起スルハ趨勢ノ然ラシムル所ニシテ輓近ノ景況亦此事實ヲ證スルモノトス果シテ然ラハ勞力モ亦唯、日常必需ノ物品ヲ製造スルニ止ラス漸次精巧勞力及ヒ上等業務ノ需要ヲ増加スルハ亦是自然ノ勢ナリ而シテ下等勞力ハ機械ノ發達ニ由リ事業ノ擴張ニ比較シ割合ニ其需要ヲ増加セサルノ勢アルヲ以テ勞力ノ下等ヨリ上等ニ移ルノ道ヲ開クハ實ニ勞力社會ノ利益ト云フヘシ然レハ則チ合衆國ノ如ク高等品殊ニ輸入ノ高等物品ニ向テ高率ノ租稅ヲ課シ民力發達ノ度ト其需要ノ度ト彼是權衡ヲ失ハシムルハ決シテ勞力ノ利益ト云フヲ得ス抑、物貨ノ配當ハ富ノ發達ト共ニ需要ノ高低ヲ定ムルモノナレハ之ヲ自然ノ調和ニ任スヲ得策トス然ルニ人為ヲ以テ此配當ヲ亂スハ實ニ生民ノ幸福ヲ減少スルモノト云ハサルヲ得ス固



ヨリ驕奢ヲ勸ムルハ甚タ不可ナリト雖モ富ノ發達ニ由リ正ニ得ヘキノ幸福ヲ妨ケ人爲ヲ以テ生活ノ度ヲ下級ニ置クニ至ラシムルハ實ニ不明ノ處置ト云フヘシ

物品ニ就テ之ヲ論スルニ或ル物品ノ生産高時アツテ乎其需要ニ超過シ大ニ價格ヲ減少シ損失ヲ來スコトナシトセス然ルニ今之ヲ自然ニ任スレハ價格ノ減少ハ需要ノ増加ヲ來スト同時ニ生産ノ進行ヲ制御シ需給ノ調和ヲ見ルハ夙ニ學理ノ指示スル所ナリ西曆千八百八十五年綿絲及ヒ綿布製造ノ能力大ニ増加シ到底其供給ハ需要ニ超過スヘキノ勢ヲ示シ實ニ八十六年ヘノ越高ハ英國市場ノミニシテ四億「ヤード」ノ多キヲ致セリ然ルニ同年以來四海ノ商況敢テ活氣ヲ生セシト云フニ非サルモ綿布ノ需要大ニ増加シ幸ニ供給ノ増加ヲ感セス八十九年ノ頃ニ至テハ自然ニシテ需給ノ平均ヲ得又異狀ヲ呈セス

砂糖ノ場合ニ於テモ一時供給ニ非常ノ増加ヲ來セシト雖モ價格ノ減少ニ依リ大ニ需要ヲ増加シ生産ヲ制御シ西曆千八百八十五年十月ニハ世界ノ市場ニ於ケル砂糖ノ有荷百四萬二千九百五十九噸ナリシト雖モ八十七年ニハ五十六萬

八千八百八十八噸ニ減シ八十九年一月ニハ普通ノ有高ト比シテ敢テ滯積ノ狀ヲ呈セサルニ至レリ

近時生産ノ増加著シク人口増加ノ比例ニ超過スルノ勢ヲ呈セシモノ一ニシテ足ラスト雖モ就中鐵ノ如キハ非常ノ増加ヲ示シ其代價非常ニ低落シ鐵業將來ノ爲メ大ニ慮ラサル所ナキヲ得サルノ勢ヲ示セリ然レトモ今退テ鐵業ノ未來ヲトスルニ其盛衰ハ世運進歩ノ如何ニ存スルノミ抑鐵類ノ需要ハ世運ノ進歩ニ相伴フモノニシテ需要高ノ大ナルハ則チ開明ノ高度ヲ示スモノトス西曆千八百八十二年世界ノ人口ハ凡ソ十四億二千四百六十八萬六千五百七十八人ニシテ歐洲及ヒ合衆國ノ人口ハ三億九千八百三十三萬三千七百五十人ナリトス方今モ粗尙ホ同様ナルヘシ然ルニ同年鐵類ノ總需要高ハ二千五十六萬七千七百四十六噸ニシテ其内歐洲諸國及ヒ合衆國ノ需要ニ係ルモノ千九百五萬七千九百六十三噸ナリトス故ニ歐洲及ヒ合衆國ノ人口ハ四海總人口ノ凡ソ四分ノ一ニシテ鐵ノ需要高ハ其總高凡ソ二十分ノ十九ニ當ルモノナリ豈ニ盛ナラスヤ今諸國ノ鐵類需要高ヲ見ルニ異國ノ需要高ハ一年一人ニ付二百八十七英斤合



衆國ハ二百七十英斤白耳義ハ二百三十八英斤佛ハ百四十九英斤獨ハ百二十三英斤諾威及ヒ瑞典ハ七十七英斤澳ハ三十七英斤魯ハ二十四英斤零六南米諸國ハ十三英斤半イヂプトハ七英斤印度ハ二英斤四其他ノ諸國ハ一英斤九六ナリトス(西曆千八百八十二年ノ景況然ルニ今ヤ歐洲外ノ諸國ニ於テ文武ノ事業年ニ進歩シ鐵ノ需要高大ニ増加スルノ勢アルハ蓋シ掩フヘカラサルノ事跡タリ歐洲外ノ巨大ナル人口年々一人ニ付一英斤ノ需要ヲ増加スルトスルモ其高實ニ僅少ナルニ非ス鐵業ノ將來亦多望ナリト云フヘシ又機那ノ價格減少セシニ由リ大ニ其需要ヲ増加セシハ既ニ之ヲ論セリ實ニ此品ノ如キハ疾病ナクンハ如何ニ其價格低落スト雖モ需要ノ増加ヲ來スヘキモノニ非スト雖モ價格ノ減少ハ意外ノ結果ヲ生セリ則チ藥舖事業ニ從事スル者ハ其供給ノ増加ニ苦シミ遂ニ機那丸ナル丸藥ヲ製造シ南亞ノ「マラリヤ」熱流行地方ニ輸出シ一方ニ於テハ從前高價ノ爲メニ此奇藥ヲ用ユルヲ得サリシ多數ノ印度人ヲ助ケ一方ニ於テハ相當ノ利益ヲ收ムルコトヲ得タリ而シテ此輸出ノ爲メ最モ福利ヲ得タルハ清國南方諸川ノ沿岸又ハ水上船舶内ニ住息スル人

民トス彼等ノ亞片毒ニ感染スルハ實ニ恐ルヘキノ弊習ナリト雖モ其使用中ニハ醫術ノ不完全ニ依リ此地方流行ノ熱病ニ侵サレ已ムヲ得スシテ亞片ヲ服用シ其疾苦ヲ免カル、モ其余醉之ヲ止ムルコト能ハス遂ニ煙毒ニ感染スルノ不幸ニ陥ルモノ實ニ少シトセス然ルニ是等ノ人民一朝廉價ヲ以テ機那丸ヲ得ルノ便ヲ得タルハ實ニ非常ノ幸福ニシテ其結果意外ト云ハサルヲ得ス然レトモ生産分配法ノ變化ハ一部分ノ爲メ非常ノ困難ヲ來スコトナキヲ得ス則チ機那ノ問題ニ於テモ印度及ヒ「シヤ」島ニ於テ「シン」コナ「樹栽培」以來其本國ナルコロ「ン」ビヤノ「シン」コナ「樹皮」ノ輸出貿易ハ殆ント皆無ニ歸シ西曆千八百八十年ニハ百二萬四千七百六十三「ポンド」ノ輸出アリト雖モ八十七年ハ僅カニ八千「ポンド」ニ減少セリ實ニ非常ノ變化ト云フヘシ此形勢ニ驚キ當時只一局部ノ觀察ヲ以テ事ヲ議スル者皆以爲ラク世運進歩ナルモノハ却テ人民ノ不幸ヲ來スモノナリト其認見モ亦甚シキモノトス世ノ經濟ヲ論スルモノ豈ニ眼ヲ全局ニ注カスシテ可ナランヤ夫レ勞力者ノ不平ナル第一ノ點ニ於テハ既ニ之ヲ論破シ其妄ナルコトヲ證明



セリ請フ今一步ヲ進メテ其第二ノ點ニ論及セシ  
 元來事業ノ進步ハ多少機關的組織ノ發達ヲ免レス而シテ分業法ノ益精密ヲ加  
 フルハ蓋シ勢ノ免レ能ハサル所ナリ然リト雖モ世運ノ進步ハ大ニ勞力ノ効驗  
 ヲ増シ勞銀ノ高チ増加シ勞働時間ハ却テ減少シ消費物ノ價格ハ大ニ減少シ勞  
 力者ノ景況ハ之ヲ往時ニ比シテ大ニ進步セリ然ルチ尙ホ且勞力ノ徒ハ是等ノ  
 利益ヲ辭シ往明ノ手工時期ニ復舊セシコトヲ望マン乎迂モ亦甚シキモノト云  
 フヘシ惟フニ數萬ノ勞力者ニシテ若シ靜カニ事物ノ關係ヲ熟考セハ其復舊ヲ  
 望ム者ハ實ニ僅有絶無ニシテ或ル格別ナル取除ケノ場合ニ遭遇スルモノ、外  
 蓋シ之レアラサルヘシ彼ノ分業ノ法最モ行ハレ一業ニシテ六十二部ニ分ル、  
 所ノ履製造ノ場合ヲ以テ之ヲ論スルニ勞銀ハ多ク箇數當リニシテ勞力者ハ履  
 ノ仕上ケヲ見テ精心上ノ満足ヲ得ル能ハスト雖モ尙ホ其勉勵ハ以テ勞銀ヲ増  
 加シ得ルノ望ミアリテ大ニ各自ノ心事ヲ慰スルモノナシトセス往時製靴ノ手  
 藝ニ屬シタル時代ニ於テハ勞働時間チ一定スルコト能ハス或ハ一日僅少時間  
 ノ勞働ニ從事シ或ハ終日ニシテ夜ニ繼キ其勞働ノ時間ハ一日平均十五時ナリ

シト雖モ今ヤ規則アル製造所ニ於テ其業ニ從ヒ勞働時間ハ一日十時ヲ超ヘス  
 又履製造所ニ履縫器械ヲ設備セシヨリ女工ノ使用大ニ増加シ女工ノ勞銀ニ増  
 加ヲ來セリ衣服製造所ニ於テモ裁縫器械ノ採用ハ大ニ事業ヲ擴張シ勞銀ヲ増  
 加セリ又全國ヲ以テ之ヲ論スレハ各種ノ勞力者ハ必ス製造所ニ於テ勞働スル  
 モノニ非ス合衆國ニ於テハ其比例ハ十二付一ニシテ殘ル所ノ九人ハ從前ノ如  
 ク自己獨立ノ能力ニ據リ其生計ヲ求メサルヲ得ス他ノ製造國ニ於テモ蓋シ同  
 様ナルヘシ抑、近年機業ニ於テ女工及ヒ少年勞力ノ増加ヲ來シ爲メニ壯年勞力  
 者ハ幾分乎其職業ノ位置ヲ縮少セラル、ニ至テハ社會上或ハ變異ノ結果ヲ來  
 スヘシト雖モ一方ヨリ之ヲ論スレハ是亦機械進步ノ致ス所ニシテ則チ從前ハ  
 壯年勞力者ニ非サレハ運轉シ能ハサル器械モ其改良ノ爲メ婦女少年ニシテ容  
 易ニ之ヲ取扱ヒ得ルコト、ナリシ結果ニシテ生産上ニ強大ナル腕力ヲ要セサ  
 ルニ至リシハ實ニ世運ノ一大進步ト云ハサルヲ得ス而シテ機械ノ進步ハ大ニ  
 製品ノ價格ヲ減少シ其需要ヲ増加シ壯年勞力者モ亦其職ヲ失ハサルニ於テハ  
 非常ノ幸福ト云フヲ得ヘシ蓋シ營業ノ規模大ナレハ營業場ノ組織隨テ完全ナ



ルコトヲ得勞力者ノ不正工場ヨリ瑣細ナル物品ヲ盜ミ去ルノ類ヲ防キ衛生上ノ注意等充分ニ行ハル、ハ自然ノ道理タリ實ニ近年ノ景況ハ之ヲ三四十年前ニ比スルニ是等ノ點ニ於テ大ニ進歩シタルモノニシテ勞力者ノ爲メニ賀スヘキノ至リナリ(フレデリッキ、インゲルス氏ノ千八百四十四年ニ於ケル英國勞働社會ノ景況ヲ參觀スヘシ)

獨逸ニシーメンスト號クル有名ナル工業上ノ發明者アリ先年伯林市ニ於テ勞力問題ニ付キ一演說ヲ試ミ方今ノ製造事業ハ大資本ヲ要シ而シテ之ニ從事スル勞力者ハ殆ント奴隸様ノ鞭撻ヲ受ク今日ノ勢生産品ノ代價ヲ減セント欲セハ實ニ已ムヲ得サルモノナリト雖モ畢竟是機械學ノ應用未タ精妙ナラサルノ致ス所ナリ他日一層ノ進歩ヲ得ハ勞力者箇々ノ住家ニ於テ獨立シテ十分ニ利益アル生産ニ從事スルヲ得ヘシトノ說ヲ公ニセリ焉ソソ知ラン他日電氣若クハ磁石力ノ研究其極ニ達シ或ル場所ニ於テ原力ヲ發生シ之ヲ八方ニ傳ヘテ戸々ノ小機械ヲ運轉スルヲ得ルニ至レハ目下所用ノ蒸氣釜原力發車ノ如キ巨大ノ要具ヲ用ヒス生産上ノ利益ト精心的ノ利益ヲ兼備スルコトヲキヲ彼ノシ



# 賣捌所

東京京橋區尾張町

東 海 堂

同 神田區錦町

武 藏 屋

同 神田區一ツ橋通リ

有 斐 閣

麻布區永坂町五拾壹番地

旭 堂

同 神田區表神保町

東 京 堂

明治廿六年七月二十日印刷  
明治廿六年七月廿一日發行

定價拾錢

東京市神田區西小川町一丁目八番地

發行兼印刷者 高橋捨六

東京市小石川區下富阪町十七番地

編輯者 濱田健次郎

東京神田區今川小路二丁目八番地

發行所 特別認可 私立專修學校